

広報委員会（第25期 第4回）

議事要旨

1. 日 時 令和3年9月9日（木）17:30～19:00
2. 場 所 オンライン開催
3. 出席者 菱田委員長、松下副委員長、狩野幹事、所幹事、磯委員、大倉委員、多久和委員、伊藤委員、隠岐委員、辻委員、三成委員、渡辺委員
（説明者） 谷内江連携会員（若手アカデミー）
4. 配布資料
資料1 CSTI 日本学術会議の在り方に関する政策討議（第3回）説明資料
資料2 CSTI 日本学術会議の在り方に関する政策討議（第4回）説明資料
資料3 森美樹氏紹介資料
資料4 科学論説懇談会名簿
資料5 学術会議の広報に係る意思決定について（案）
資料6 提言作成における文書可視化システム利用の提案（総合工学委員会）
資料7-1 広報委員会への要望事項（国際委員会、同国際対応戦略立案分科会）
資料7-2 若手アカデミー情報発信戦略に関する上申書（若手アカデミー、同情報発信分科会）
5. 議 事
 - （1）学術会議の状況について（資料1, 2）

菱田委員長より、学術会議の状況について説明がされた。
 - （2）情報発信に係るメンバーの強化について（資料3）

狩野幹事より、学術会議の情報発信に係るメンバー強化のため、森美樹氏の紹介があり、日本学術会議アドバイザーとして会長補佐広報戦略推進担当という形で、幹事会に委嘱を提案することとした。

（主な意見）

 - ・良いコンテンツの作成に当たっては、編集だけでなく企画段階からしっかりと考える必要がある。また、会員の理解も必要となる。
 - ・映像のコンテンツは複数のカメラを使用するなど臨場感を持たせないと見てもらえる物は作れない。
 - ・コンテンツは、質の高いものと様々なトピックスのものの両方を作成する必要がある。
 - ・作成後のコンテンツについて、その効果的な活用方法について考える必要がある。
 - （3）論説委員等との記者懇談会の開催について（資料4）

菱田委員長より、論説委員等との記者懇談会の開催について、開催時期や議題について引き続き検討をしていく旨の説明があった。
 - （4）学術会議の広報に係る意思決定について（資料5）

広報委員会の方針に基づく具体的な学術会議の広報については、狩野幹事を編集委員長として委任す

ることとした。なお、菱田委員長及び松下副委員長は適宜編集委員長の補佐をすることし、大きな方向性について疑義が生じた場合は、広報委員会として適宜メール等で判断することとした。

(主な意見)

- ・ 広報の具体的な実施は編集長を決めて、即決で行っていく必要がある。
- ・ 学術会議と深い関係があるが一定の独立性がある組織との協力も長期的に視野に入れる必要があるのではないか。

(5) 提言作成における文書可視化システム利用の提案について (総合工学委員会) (資料6)

総合工学委員会より、提言作成に当たっての MIMA サーチの活用について提案があり、広報委員会として推進していくことを決定した。

(主な意見)

- ・ 学術会議の会員同士のネットワーク強化に当たっても MIMA サーチを活用することで、分野が違う会員でも共通点が可視化できるのではないか。

(6) 国際委員会からの情報発信に係る要望について (資料7-1)

国際委員会より広報に係る要望があった。いずれも広報委員会としてすでに対応中もしくは検討を開始しており、今後さらに検討を進めていく旨菱田委員長より高村副会長に口頭で回答することとした。

(7) 若手アカデミーからの情報発信戦略に係る上申について (資料7-2)

若手アカデミーの谷内江連携会員より、情報発信戦略についての提案・要望があった。広報委員会として、特に外部サーバを利用した広報について内閣府やデジタル庁の動向も踏まえつつ検討を進めることとした。

(主な意見)

- ・ 学術フォーラム等を開催した際の動画はすでに外部サービスを利用して発信しているので、それと同様に考えるべき。
- ・ 利用するサービスによっては、コンテンツを掲載するだけでそれがそのまま若者向けのメディアとできる場合もある。
- ・ 学術会議としてではなく、協力という形であれば、外部サーバを利用しても問題はないのではないか。